

2011年度開講科目

調査実習概要報告書

8/8

2012年5月1日

| | | | |
|----------|--------------------|-------------------|--|
| 科目担当者氏名 | | 科目担当者連絡先（メールアドレス） | |
| (ふりがな) | いわぶち あきこ 岩渕 亜希子 | | |
| 連絡責任者氏名 | | 科目設置機関名 | |
| (ふりがな) | いわぶち あきこ 岩渕 亜希子 | 追手門学院大学 | |
| 授業科目名 | 科目認定番号 | 受講者数 | |
| 社会調査実習ⅡB | OTMa-110802-2 | 11 | |

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：2クラス計21名で計4テーマを設定し1つの調査票を作成した。以下に「余暇」グループの概要について述べる。

2. 調査の内容／概要：大学生生活における余暇の過ごし方の差異がどのような要因によって生じているのかを、親からのしつけ、人間関係の持ち方、経済的要因、性差などの観点から分析した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：母集団：追手門学院大学の社会学部生1～3年生 計487名、サンプリング：全数調査（1～3年ゼミ27クラスを通じた配布・回収）、標本数（母集団から実習参加者を差し引いた人数）：466名

4. 主な調査項目：性別、部活等所属、バイト経験、小遣い、外出頻度、外出先、余暇の過ごし方の好み、外出に関する親のしつけ など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：1～3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が担当して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。したがって、自記式、集合調査である（ただし、一部回収箱を利用した留置法を併用）。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2011年6月下旬～7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計21名（うちBクラス11名）

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：総配布数353、有効回収数：328、配布数に対する有効回収率：92.9%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：SPSSを用いた統計解析（クロス表分析とカイ2乗検定、相関分析が中心）

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：①余暇における外出意欲・外出頻度に対して、親のしつけは影響していない、②経済的余裕、恋人がいること、社交性の高さが大学生生活における外出意欲・外出頻度を規定しており、とりわけ社交性の高さが与える影響が大きい、③ただし、社交性の高さは必ずしも外出頻度に対する先行要因ではなく、ファッションなどへの関心が外出意欲をかきたて、結果的に社交性を産むという回路の存在も示唆された

10. 報告書刊行の予定と概要：2012年3月に『2011年度 社会調査実習報告書』刊行。Bクラスからは、余暇に関する論文5本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

| | | | |
|----------|--------------------|-------------------|--|
| 科目担当者氏名 | | 科目担当者連絡先(メールアドレス) | |
| (ふりがな) | いわぶち あきこ 岩淵 亜希子 | | |
| 連絡責任者氏名 | | 科目設置機関名 | |
| (ふりがな) | いわぶち あきこ 岩淵 亜希子 | 追手門学院大学 | |
| 授業科目名 | 科目認定番号 | 受講者数 | |
| 社会調査実習ⅡB | OTMa-110802-2 | 11 | |

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計(デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計21名で計4テーマを設定し1つの調査票を作成した。以下に「恋愛」グループの概要について述べる。

2. 調査の内容/概要：恋愛における理想と現実がどのように経験され、またどのようにその乖離が処理されているのかについて、特に性差に注目して分析を行った。

3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1～3年生 計487名、サンプリング：全数調査(1～3年ゼミ27クラスを通じた配布・回収)、標本数(母集団から実習参加者を差し引いた人数)：466名

4. 主な調査項目：恋愛における理想の有無、恋愛における理想と現実のギャップに対する対応、恋愛経験、恋愛情報への接触度 など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：1～3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。したがって、自記式、集合調査である(ただし、一部回収箱を利用した留置法を併用)。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2011年6月下旬～7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計21名(うちBクラス11名)

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数353、有効回収数：328、配布数に対する有効回収率：92.9%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析(クロス表分析とカイ2乗検定、相関分析が中心)

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：①恋愛(相手)に対する理想は、男性よりも女性の方が強い、ただし男性も理想としてこだわるポイント(飲酒傾向など)はある、②全般的に見て、現実を理想に近づけるために行動を起こす(相手に伝える等)のは、男性よりも女性であるが、「実際に会う」ことに関しては男性の方が行動を起こすという回答が多かった。恋愛における「会うこと」の価値に性差があるのだと解釈できる。

10. 報告書刊行の予定と概要：2012年3月に『2011年度 社会調査実習報告書』刊行。Bクラスからは、恋愛に関する論文5本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。